

エントリーネーム

ゆい

学校名

熊本高等専門学校（熊本県）

## 製品アイデアの概要

名称

Res-Q

## 【どんな場面で】

災害時に傷病者がいる家で

## 【誰がまたは誰に】

傷病者や傷病者の周りの人が消防署に

## 【何をするためのもの】

form形式で傷病者の状態を入力することでトリアージを行い、消防が一目で傷病者の状態をマップと照らし合わせて確認できるシステム

## ＜製品の写真・イラスト等＞



従来

119番



- ・電話が混雑する
- ・重篤な患者が待たされる場合がある

提案

消防署



- ・form形式で簡単に送信可能
- ・トリアージを行える
- ・救急隊が一目で情報を確認可能

## 解決したい課題や製品アイデアを考えたきっかけ

令和二年度豪雨災害で被災したことからこのアイデアを思いつきました。災害が起こるたびにテレビで「大変だなあ」と楽観していたときとは違い、体の不自由な祖父母を避難させ、浸水してくる中で荷物を運び出し、混乱の中で体調が悪くなった弟の看病をしながら、こんなにパニックになるものなのだと呆然となりました。実際に、長時間水に浸かっていたお年寄りの方が一般の方に助け出されましたが、どのような処置をすればいいか分からなかったため結局亡くなってしまったということがありました。

もし、医学の知識がない方でも家族の状態がわかれば手当などを行うことができ、救助隊が来るまで助かる確率を上げることができると考えます。また、すぐに救助すれば命が助かるという患者の電話がつかない場合など、命を救えたはずの患者を救えなかったという悲劇を起こさないために、電話ではなく、自分の当てはまる症状を直接救急隊に送信し、救急隊が危険度の高い患者から優先的に救助していくシステムが必要だと考えました。